

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 23日から24日にかけて、低気圧が北日本付近を通過する。
- 25日は、低気圧は日本の東へ進み、高気圧が沿海州付近へ移動して西高東低の気圧配置となる。
- 26日は、本州付近を気圧の尾根が東へ移動し、低気圧が日本海西部に進む。
- 27日は、低気圧が日本海を東へ進み、高気圧が日本の東を移動して日本付近は大陸の高気圧との間で気圧の谷となる。

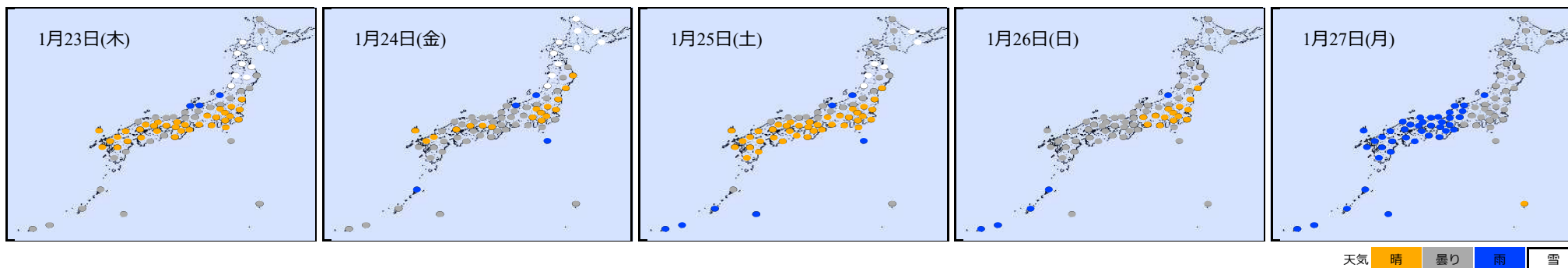
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

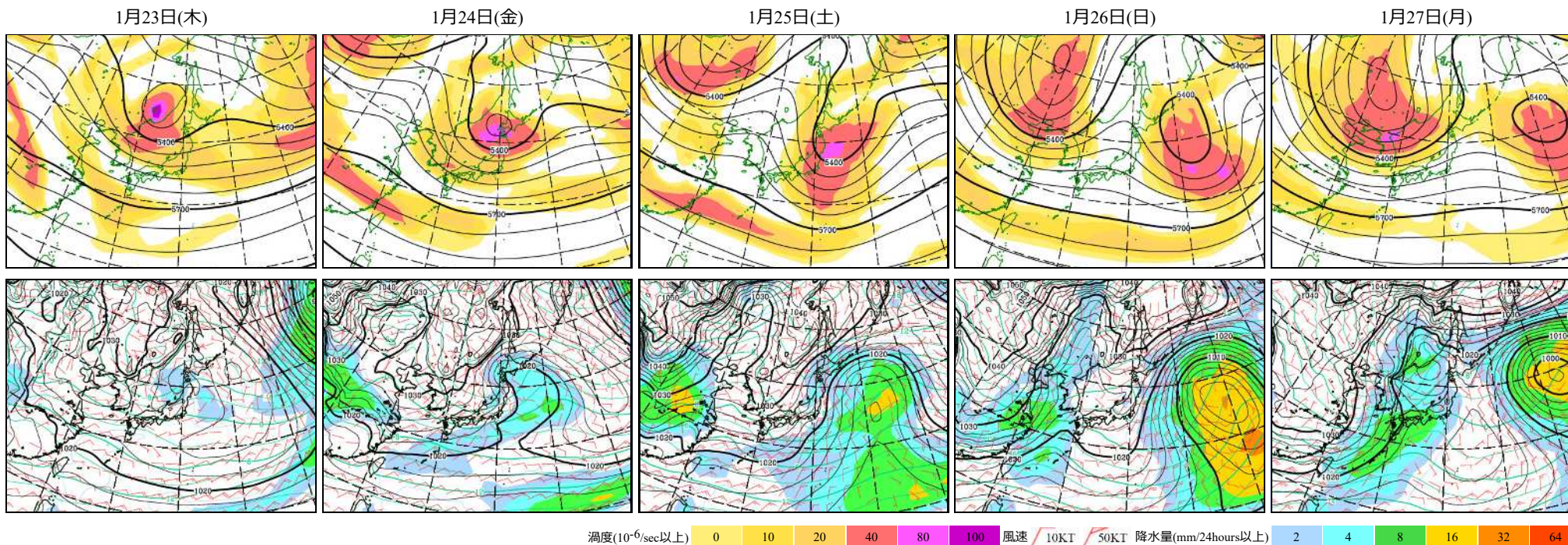
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

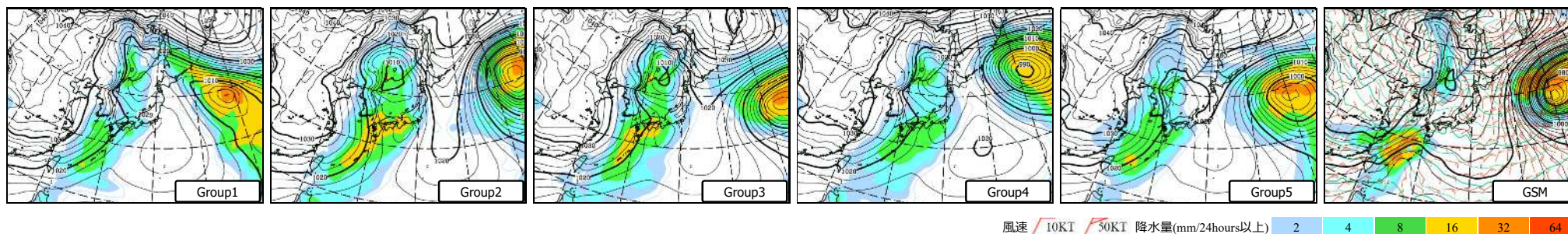


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが、27日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、23日から25日にかけて北日本付近を通過する低気圧や気圧の谷の東進が遅くなり、26日頃に日本付近を東へ進む気圧の尾根の東進も遅くなった。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のばらつきも大きい。
- 24日は、低気圧や気圧の谷の東進が遅くなった影響で、北日本で降水確率が高くなった所が多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。